

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぐんぐん九条		
○保護者評価実施期間	令和8年2月2日	～	令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数)
			18
○従業者評価実施期間	令和8年2月2日	～	令和8年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)
			6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月28日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりに最適な支援を提供するため、保育園や担当相談員などの関係機関と密に連携しています。 定期的な情報共有と丁寧な意見交換を通して、支援方針の統一と継続性を大切にし、より質の高い支援体制を構築しています。	保護者様と信頼関係を築き、関係機関と密に連携することで、全員が同じ目標を共有した支援を行っています。 一人ひとりの発達に合わせた具体的な目標を立て、問題があれば早めに話し合い、解決に向けて協力して取り組んでいます。ブレのない一貫した支援体制で、お客様の成長を確実に支えています。	専門職をはじめとする多職種が密に連携し、それぞれの強みを最大限に活かした支援体制を構築していきます。 役割を明確にしながら協働することで、質の高い支援を途切れることなく提供できる仕組みを整えます。 さらに、児童や保護者の声に丁寧に耳を傾け、状況やニーズの変化にも柔軟に対応しながら、安心して任せただけの支援を継続していきます。
2	土曜日・祝日には、外出支援やクッキング、地域交流活動など、日常では得がたい多彩な体験プログラムを実施しています。 また、クリスマス会・ハロウィン・夏祭りなど季節を感じられる行事も大切にし、楽しみながら社会性や協調性を育てています。	安全管理を徹底した環境の中で、楽しさと学びが両立する活動を提供しています。児童の個性や成長段階に応じて役割を工夫し、「自分にもできた」という達成感を味わえるプログラムを設計。また、自然体験や生物との関わりを通じて、食べ物への感謝や命を預かる責任感を育み、命の大切さを体感的に学べる支援を行っています。	楽しみながら学べる環境をさらに充実させ、活動の幅を広げていきます。その中で、一人ひとりの創造力や好奇心を引き出し、豊かな学びの機会を提供します。 また、協力する活動やコミュニケーションの場を増やし、多様な経験を通して子どもたちの成長をしっかりと支えていきます。
3	週ごとに内容を工夫した充実のプログラムで、実践的なスキルの定着を図っています。 個別支援では一人ひとりの課題に丁寧に向き合い、小集団活動では仲間と協力しながら学ぶ力を育成。 「できた」という成功体験を積み重ねることで、集中力やモチベーションの向上へとつなげています。	子どもたちの「好き」や「得意」を大切に個別・小集団学習を行い、学習支援やソーシャルスキルトレーニングを効果的に取り入れています。興味関心を原動力にすることで、主体的に取り組める学びの時間を創出しています。 さらに、マット運動・大縄跳び・リズム体操・リトミック等の集団活動を通して、仲間と挑戦する喜びや達成感を共有。小さな成功体験を積み重ねることで、自己肯定感と自信を育てています。	専門職員としっかり連携しながら、一人ひとりに合った丁寧な個別指導と、小集団・集団での多様な活動をさらに充実させていきます。 専門的な視点を取り入れることで支援の質を高め、子どもたちが経験できる活動の幅をこれまで以上に広げていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ベアレント・トレーニングや、ご家族様が参加できる研修の機会を設けていません。	ベアレント・トレーニングなどの家族支援プログラムを開催する際に、専門的な知識やスキルを備えた職員の育成・確保が必要です。同時に、参加者が安心して活動に取り組めるよう、時間や場所の確保、運営方法の工夫など環境面の整備も欠かせません。こうした条件を満たすためには、関係者との綿密な調整と協力が不可欠であり、包括的な準備が課題だと考えます。	効果的な家族支援プログラムを提供するには、専門的な知識や技能を持つ職員の存在が欠かせません。 そのため、研修や人材育成を体系的に計画し、確実に職員の能力を高めていくことが必要だと考えています。
2	きょうだい向けのイベントの開催が行われていません。	参加されるお客様の安全確保を最優先とし、それぞれの発達段階に合わせた適切なルール作りや、ご家庭のプライバシーへの配慮を徹底することが不可欠です。しかし、保護者同伴が必要な場面では、家庭の負担が増す点も課題です。加えて、運営スタッフの専門性向上や、活動に必要な時間や場所の確保など、さまざまな調整を行う必要があります。	きょうだい間の関わりを深めるイベントを企画するにあたり、何よりも重要なのは、子どもたちの年齢や発達段階に応じたプログラムを丁寧に設計することです。 そのうえで、共同作業や協力し合う活動を取り入れることで、自然な形で絆を育む体験を提供していきたいと考えています。
3	保護者同士の交流会が行われていません。	安全で質の高い活動を提供するためには、ルールの明確化と情報管理の徹底が基本となります。保護者ごとに異なる期待や参加意欲を把握し、それぞれに合った配慮を行うことが重要です。さらに、運営スタッフの能力向上や、時間・場所の確保といった多くの調整を行い、誰もが安心して参加できる体制を築くことが求められると考えます。	保護者様が安心感を持って参加できるよう、時間や心理的負担を軽減する工夫を行い、柔軟に参加しやすい形式を取り入れることが重要です。 こうした配慮により、保護者様が積極的に交流や意見交換に参加できる環境を整えることができると考えています。